題材名「自分の気持ちを表現しよう」

教材 「Listen to…」 「音楽しよう」 「Movement」

1 題材の目標

- (1) 聞こえてくる音に気付いて、自分なりの動きを示す。
- (2) 歌いかけを聞いて、気持ちを伝えようと声を出したり身体を動かしたりする。
- (3) 音や音楽の働きかけを受け入れて、音楽活動を楽しみながら主体的に感じたことを表現しようとする。

2 教材について

本授業で使用する教材は、指導者が作詞作曲した。全曲において、ノンバーバルコミュニケーションの生徒に対する「音楽による対話」を基調としている。

「Listen to…」は、音を注意深く聴き取る経験ができるように構成した。生徒一人一人の動きを見ながら進められるように、フレーズの終わり方を工夫している。また、生徒の動きを引き出すことができるように、歌詞の言葉の使い方に気を付けている。

「音楽しよう」は、生徒の自発的な動きを引き出すことを目的とし、主に楽器を使って活動できるように構成している。歌詞を通して、自分と友だちが出した音の重なりを感じるように促している。そして、「みんなで一緒に音楽しよう!」「みんなで音楽したら楽しい!」という気持ちの高揚、あるいは「あまり気分が乗らない」という気持ちになる等、この教材による活動を通して、生徒一人一人の心を動かしたい。

「Movement」では、身体の動きにスポットを当てた。自らの身体部位の動きと音との関わりに気付くようリズムの使い方を工夫している。また、全身の動きを感じる体験ができるよう、車いすによる動きも取り入れている。躍動感のある曲調から、生徒に気持ちの変化が生まれることも期待している。

3 研究主題との関連

(1) 生徒の実態から 略

(2) 研究視点「音楽療法の視点と手法」と自立活動との関連

研究主題に関する考察にも触れてあるとおり、音楽療法について明確な定義はないが、日本音楽療法学会では「音楽のもつ生理的、心理的、社会的働きを用いて、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上、行動の変容などに向けて、音楽を意図的、計画的に使用すること」としている。これに依拠すると「個々の児童又は生徒が自立を目指し障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う」という自立活動の目標による指導において、音楽療法の視点と手法が有効な手立てとなるのではないかと考える。

そこで、音楽療法で使用される各楽曲が、自立活動の6区分27項目のどの区分の指導に適しているかを、簡易な表（別表1～3参照）によって分析したうえで指導している。

併せて評価規準（別表1～3参照）を設定し、授業後はサブ教員が評価規準を参照しながら、生徒の様子や変容を文章で記録し、次の指導へとつなげている。

本グループの生徒の変容は微細であり、音楽療法の視点と手法を授業に導入による効果の検証は難しいものがある。だが、授業ごとに生徒の様子や変容等を振り返り、それを指導者とサブ教員で共有しながら指導内容の改善を図ることで、少しずつではあるが生徒の自立活動の課題における成長を確認できるようになっている。

例えば、不安感が強くコミュニケーションに課題がある生徒Eは、本授業を継続的に受けることで楽器を扱う際の手の力をコントロールできるようになったり、指導者との発声によるやりとりを確実にこなせるようになったりする等、「身体の動き」及び「コミュニケーション」における変容が見られるようになった。そして日常的な場面では、生徒E自ら手を振って指導者を呼び、指導者が近づくと「あ」と発声して何かを伝えようとするようになった。また、生徒Eは関りを求める際に相手の手を強く引っ張ることが多いが、指導者の「やさしくね」との言葉かけで、力を抜くことができるようになってきた。

「音楽療法の視点と手法」と自立活動との関連については、いまだ試行錯誤の段階であるが、この事例を基にしながら、引き続き追究していきたい。

4 本題材で扱う学習指導要領の内容

小学部【A 表現】I 段階

- (ア) 音や音遊びについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音や音楽を聴いて、自分なりに表そうとすること
- (イ) 表現する音や音楽に気付くこと
- (ウ) 思いに合った表現をするために必要な次のアからウまでの技能を身に付けること
 - ㊦ 音や音楽を感じて身体を動かす技能
 - ㊧ 音や音楽を感じて楽器の音を出す技能
 - ㊨ 音や音楽を感じて声を出す技能

【共通事項】

- ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聞き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・聞こえてくる音や音楽に気付いている。 ・聞こえてくる音や音楽を感じて声を出している。 ・腕や指先などを動かして楽器の音を出している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律に合わせた歌いかけ等、音や音楽を聴き取り、自分なりに感じた思いや気持ちを伝えようと、声を出したり体を動かしたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌いかけ等、音や音楽の働きかけを受け入れて関心を持ち、音楽活動を楽しみながら声を出したり、自ら楽器に向かって手を伸ばしたりして主体的・協働的に感じたことを表現しようとしている。

6 指導と評価の計画(全4時間)

時	◆本時のめあて ●学習内容・学習活動	評価・評価方法		
		知技	思	態
第1 ～ 2 時	◆様々な音色を聴いて、心地よいと感じる音を見つける			
	●「Listen to...」 ・音に気付いて自分なりの表出を見せる ●「音楽しよう」 ・様々な楽器に触れようとする ●「Movement」 ・車いすの動きを受け入れる			観 察
第3 時 (本 時)	◆歌を聴いて声を出したり楽器を鳴らそうとしたりして自分が出す音に気付く			
	●「Listen to...」 ・音が発する方を見たり、自分の動きを止めて聴こうとしたりする ●「音楽しよう」 ・その時の気分に合う音がする楽器ややってみたい楽器を選ぶ ・歌いかけに応じて楽器を鳴らす ●「Movement」 ・身体の動きを受け入れる ・腕や指先、足を動かす	観 察	観 察	
第4 時	◆友だちの音と自分の音が重なる音空間の心地よさを味わう			
	●「Listen to...」 ・自分で選んだ楽器の音を聴く ●「音楽しよう」 ・友だちが鳴らす音を聴く ・友だちの音と自分の音が重なってできる音楽の面白さを味わう ●「Movement」 ・気持ちを表情に表す ・友だちと一緒に持つプレイクロスの動きを見る		観 察	観 察

7 生徒の実態と本時の目標 略

8 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
10:05	「はじまりの歌」 ・歌を聴きながら声を出したり、身体を動かしたりする。 「感じてみよう」	・音楽の授業の始まりを歌に乗せて語りかける。 ・曲のテンポに合わせてタッピングや手拍子をする。 ・前もって触れる部分を伝える。	・歌っている指導者を見ている。(観察) ・音楽に伴って身体を動かしている。(観察) ・触れられている部

	・触れられている部分を意識する。	・順番を待つ生徒の動きを見て、自分で動かしている場所を言葉に置き換えて、自発的な動きを引き出す。	分を見ている。(観察) ・触れられているときに動きを止めている。(観察)
10:10	「Listen to…」 ・音が聴こえる方を見たり、動きを止めて、聴こうとしたりする。	・シンプルな音を提示し、生徒の表情の変化や、発声、身体の動きを注視する。 ・どの音への関心が高いか、質(音色やリズム)の違う音を複数提示する。 ・残響音が最後まで聴こえるように、注意深く楽器の音を出す。	・音が聴こえたときに、これまでと違った表出がある。(観察)
10:15	「音楽しよう」 ・その時の気分に合う音がする楽器ややってみみたい楽器を選ぶ。 ・歌いかけに応じて楽器を鳴らす。	・「Listen to…」で高い関心を示した楽器を中心に提示する。 ・自発的に楽器を鳴らそうとする動きを待つ。 ・自分と友だちが楽器を鳴らす時は、友だちの方向を見たり意識を向けたりするように促す。	・自分から楽器に手を伸ばしている。(観察) ・自分なりの方法で楽器を鳴らしている。(観察) ・フレーズの間で鳴らしている。(観察)
10:25	「Movement」 ・身体の動きを受け入れる。 ・腕や指先、足を動かす。	・車いすを動かす前に、動くことを知らせる。 ・自分から動かしている身体の動きを捉えて、歌詞に乗せる。 ・表情の変化に合わせて、曲のテンポや音の大きさを変化させる。 ・プレイクロスの動きや感触が味わえるように、自分からの動きを妨げないように注意する。	・抵抗することなく、プレイクロスを持っている。(観察) ・音楽に応じて、身体を動かしている。(観察)
10:45	Let's rest! ・水分を摂る。		

別表I

1. 曲のタイトル(出典)	Listen to… (作詞・作曲:授業者)
2. 対応する自立活動	☐ 健康の保持 ☒ 心理的な安定 ☐ 人間関係の形成 ☒ 環境の把握 ☐ 身体の動き ☐ コミュニケーション
3. 使用する楽器・教材等	生徒:性質が違う楽器を複数準備 (例) ティンシャ、チャフチャス、カシン

	教員:鍵盤楽器、ギター等(生の音を大切にする)
4. 実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の音を鳴らす。 ※生徒の様子を見ながら繰り返す回数を決める。 ・生徒全員の前で音を鳴らしたら、曲を始める。 ・歌いかけながら、引き続き音をよく聴くように促す。 ※教員は、楽器を鳴らす人と歌う人で役割分担する。
5. 指導・支援のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・音を提示する際は、できるだけ言葉を使わず、楽器を鳴らす動作と視線を向けるなど、ノンバーバルなやり取りをする。 ・繰り返し鳴らすときには、楽器の種類に応じて、音と音の間隔をあけて、残響音と混ざらないようにする。 ・生徒が音を聴く様子を注意深く見守る。
6. 評価指標	☐ 音がする方を見ている ☐ 音楽に合わせて発声している ☐ 音に集中して活動に参加している

別表2

1. 曲のタイトル(出典)	音楽しよう (作詞・作曲:授業者)
2. 対応する自立活動	☐ 健康の保持 ☐ 心理的な安定 ☒ 人間関係の形成 ☐ 環境の把握 ☐ 身体の動き ☒ コミュニケーション
3. 使用する楽器・教材等	生徒:打楽器各種 教員:鍵盤楽器、ギター等(生の音を大切にする)
4. 実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に複数の楽器を提示する。 ・生徒が楽器を選んだ楽器を渡す。 ・「みんなで一緒に音楽しよう!」の歌詞の後に、自由に音を鳴らすように働きかける。 ・自分で音を鳴らす方法が見つかったら、一人ずつ音を鳴らすように促し、友だちの音を聴く時間を作る。
5. 指導・支援のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器準備では、楽器自体の音量の差が極力ないものを選択する。 ・気分があまり乗らない様子を示す生徒がいたとしても、自分の今の素直な気持ちを表現していると捉えるなど、肯定的に受け止める。 ・一人ずつの表現時間は、無理強いせずに行き届いたときのみ、取り入れる。
6. 評価指標	☐ 自分なりの方法で楽器を鳴らしている ☐ 音楽に合わせて発声している ☐ 最後まで楽器を鳴らし続けている

別表3

1. 曲のタイトル(出典)	Movement (作詞・作曲:授業者)
2. 対応する自立活動	☐ 健康の保持 ☐ 心理的な安定 ☐ 人間関係の形成 ☐ 環境の把握 ☒ 身体の動き ☒ コミュニケーション

3. 使用する楽器・教材等	生徒：プレイクロス 教員：鍵盤楽器、ギター等（生の音を大切にする）
4. 実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイクロスを配る。 ・自分でプレイクロスを持つように促す。 ・音楽に合わせてプレイクロスを動かすように見本を提示する。 必要に応じて教員と役割分担する。 ・腕をしっかり使ってプレイクロスを動かすことを目標にする。 ・活動に慣れてきたら、その場での活動から動きを加えてダイナミックな活動に発展させる。（車いすで前後、左右の動きを入れるなど）
5. 指導・支援のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・状況を見ながら、個人個人の活動にしたり、友だちとの活動にしたりする。 ・自分でプレイクロスを持つことができるように、手のそばにプレイクロスを提示する。 ・腕をしっかり使えるように支援する。徐々に支援の手を減らす。 ・車いすを動かすときには、動く前に構えの時間をとるように配慮する。
6. 評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ☐自分でプレイクロスを動かしている ☐腕を大きく動かして表現しようとしている ☐ダイナミックな動きの面白さを味わうかのように、繰り返し活動を期待している